

国立民族学博物館研究報告 vol.15-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	15
号	3
発行年	1991-03-18
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009207

1990—15_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告



リオ族における農耕儀礼の記述と解釈———杉島敬志

サーミ民族運動における言語復権の試み———庄司博史



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

15 卷 3 号

1990 年

目 次

リオ族における農耕儀礼の記述と解釈……………	杉島敬志……………	573
サーミ民族運動における言語復権の試み……………	庄司博史……………	847
彙 報……………		911
国立民族学博物館研究報告寄稿要項……………		913
国立民族学博物館研究報告執筆要領……………		914

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 15 No. 3

1990

- SUGISHIMA, Takashi Description and Interpretation of the Lionese Agricultural Rituals 573
- SHOJI, Hiroshi The Role of the Language Rehabilitation in the Sami Ethnopolitical Movement 847

彙報

(平成2年7月～
平成2年9月)

(教育職)

9月1日 第三研究部助手 森 明子
(筑波大学助手)

人事異動

(教育職) (客員部門)
7月1日 第三研究部教授 赤坂 賢
(富山大学教授)

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
宮本 勝	助教授(第二研究部)	2. 7. 1	2.10.10	マレーシア, インドネシア
片倉 素子	教授(第二研究部)	2. 7. 2	2. 8.20	エジプト, チュニジア, 中国
友枝 啓泰	教授(第四研究部)	2. 7. 2	2. 9. 3	ペルー
藤井 龍彦	助教授(第四研究部)	2. 7. 2	2.11.29	ペルー
杉田 繁治	教授(第五研究部)	2. 7. 8	2. 7.13	インド
佐々木史郎	助手(第一研究部)	2. 7.16	2. 8.21	ソ連
長野 泰彦	助教授(第一研究部)	2. 7.18	2. 7.29	中国
杉村 棟	教授(第二研究部)	2. 7.19	2. 8.23	中国
林 行夫	助手(第四研究部)	2. 7.19	2. 8.29	タイ, ミャンマー
大塚 和義	助教授(第一研究部)	2. 7.26	2. 8.12	ソ連
田邊 繁治	助教授(第二研究部)	2. 7.26	2. 8.31	タイ
秋道 智彌	助教授(第一研究部)	2. 7.26	2. 9.14	パプアニューギニア, ソロモン諸島
石毛 直道	教授(第一研究部)	2. 7.31	2. 8. 9	連合王国
田村 克己	助教授(第二研究部)	2. 8. 1	2. 8.29	ミャンマー, タイ
吉田 集而	助教授(第二研究部)	2. 8. 3	2.11.25	インドネシア, パプアニューギニア
福井 勝義	助教授(第三研究部)	2. 8. 4	2. 8.12	タイ
江口 一久	助教授(第三研究部)	2. 8. 8	2. 8.29	カナダ
長野 泰彦	助教授(第一研究部)	2. 8. 9	2. 8.22	パキスタン, インド
庄司 博史	助手(第三研究部)	2. 8. 2	2. 9.16	フィンランド, ノルウェー, ハンガリー
藤井 知昭	教授(第五研究部)	2. 8. 3	2. 8.21	インド, ネパール, タイ
松澤 員子	教授(第二研究部)	2. 8.20	2. 9. 9	台湾
佐々木高明	教授(第二研究部)	2. 8.21	2. 8.25	タイ
永ノ尾信悟	助教授(第三研究部)	2. 8.25	2. 9. 4	オーストリア
石毛 直道	教授(第一研究部)	2. 8.26	2. 9.11	ブータン, タイ, マレーシア
栗田 靖之	助教授(第二研究部)	2. 8.26	2. 9.11	ブータン, タイ, マレーシア
吉田 憲司	助手(第二研究部)	2. 9. 7	3. 6. 2	連合王国, ドイツ
佐藤 浩司	助手(第四研究部)	2. 9.16	2.10.16	インドネシア
山本 紀夫	助教授(第四研究部)	2. 9.26	2.10. 3	アメリカ合衆国

来館者抄

7月2日 烏 恩 特(中国, 内蒙古社会科学院外事秘書)

7月3日 Robert M. ADAMS(アメリカ合衆国, スミソニアン協会長官) 夫妻

Ahmad FODIL-BEY(アルジェリア, 国立博覧会事務局総裁)
Mohamed LAIB(アルジェリア, 国営植物公園総裁)
Youcef HODJA(アルジェリア, 文化庁文化宮殿局長)

- Ahmed GASHI (アルジェリア, 国立博覧会事務局対外関係課長)
- Mohamed Bachir KECHROUD (アルジェリア, アルジェリア・ツーリング・クラブ会長)
- 7月7日 アラン・ポール (ソロモン諸島, 天然資源大臣) 夫妻
ヘンリー・イサ (ソロモン諸島, 環境保全局長)
ウイルソン・マエラワ (ソロモン諸島, 環境局長)
- 7月16日 石坂財団奨学生見学会一行 総勢24名
大阪府友好都市フランス・ヴァルドワーズ県一行 総勢30名
- 7月20日 屠培林 (中国, 中華全国新聞記者協会国際連絡部主任高級記者)
- 7月23日 Ovini Bokini RATU (フィジー, 森林大臣) 夫妻
Charls WALKER (フィジー在日大使)
- 7月28日 吹田市姉妹都市 オーストラリア・バンクスタウン市訪問団一行 総勢125名
- 8月3日 ベナシェノン (フランス, ユネスコ社会科学担当)
- 8月11日 Emmanuel RODRIGUEZ (ベリーズ, 観光次官)
Vinnel Branch PLOOG (ベリーズ, 国立考古学博物館総裁)
- 8月12日 オーストラリア少年少女合唱団一行 総勢23名
- 8月14日 Sulaiman ALIAS (マレーシア, Shapadu Holding 社取締役・コラムニスト)
- 8月23日 Jorge ANHALZER (エクアドル, 農牧省技術担当次官)
Krustan Nikolov KARAKASHEV (ブルガリア, 国立都市地域計画センター所属造園都市計画専門家)
S. A. O. ADEYEMI (ナイジェリア, 国立園芸研究所長)
- 8月27日 山内 篤 (ブラジル, 移民資料館委員会委員長, ブラジル日本文化協会第一副会長)
- 9月3日 孫克幸 (大韓民国, 韓国文化芸術振興院企画部長)
- 沈和民 (大韓民国, 同院総務部)
- 朴鍾植 (大韓民国, 同院研修館)
- 韓哲 (大韓民国, 同院文芸会館)
- 関峻弘 (大韓民国, 同院文学美術部)
- 都益洙 (大韓民国, 同院監査室)
- 9月17日 王正芳 (中国, 雲南省民族博物館長)
代世館 (中国, 雲南省民族委員会)
尹紹亭 (中国, 雲南省民族博物館員)
張寧 (中国, 同館員)
- 9月18日 Sumitr PITIPHANT (タイ, タマサート大学社会人類学部長)
Anwaruliah CHOWDHURY (バングラディシュ, ダッカ大学社会学部長)
ナイジェリア報道関係者 Wole ELEGBEDE (チャンピオン紙外交問題上級記者)
Nnamdi OBASI (コンコード紙社説担当編集委員)
- 9月21日 メリック・ポツナンスキー (アメリカ合衆国, カリフォルニア大学ロサンゼルス校アフリカ研究センター所長)
Afkhame-Aghda ALI (イラン, テヘラン大学外国語学部長)
- 9月30日 中国文芸界連合会代表団一行 団長 馬烽 (中国文学芸術界連合会執行副首席)
梁光弟 (同会全国委員会委員)
陳清泉 (上海市文学芸術界連合会党組書記)
旋万春 (中国音楽家協会常務理事)
潘虹 (中国文学芸術界連合会全国委員会委員)
李世南 (中国美術家協会員)
趙平 (中国文学芸術界連合会国際部幹部)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえで、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。歌文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 15卷3号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

片 倉 素 子

崎 山 理 生

周 達 生

須 藤 健 一

垂 水 稔 彦

長 野 泰 夫

林 行 夫

福 井 勝 義

松 原 正 毅

宮 本 勝

平成3年3月18日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 15卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.15 no.3
1990

SUGISHIMA, Takashi

**Description and Interpretation of the Lionese
Agricultural Rituals**

SHOJI, Hiroshi

**The Role of the Language Rehabilitation in the
Sami Ethnopolitical Movement**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita Osaka, Japan
phone 06-876 2151

ISSN 0385-180X